

国内研修報告書

研修先：一般財団法人まちと人と

日程：8月29日～9月6日

【一般財団法人まちと人と】

「まちと人と」は震災後の石巻で生まれたまちづくり団体である一般財団法人「ISHINOMAKI2,0」が取り組んできた教育や人材育成のプログラムを、充実・発展させるために2022年3月に独立した組織である。震災を受け、やるせなさを感じている地元の学生の力になるために総合的な探求の時間を活用したフィールドワークなどの教育事業を展開したり、県外からのインターン生を積極的に受け入れ大学生のキャリアステップの機会を提供する場ともなっている。実際に私が行った時も県内県外問わず多くの大学生インターンがおり、それぞれが担っているプログラムに専念する様子が見受けられた。

【研修内容】

まちと人々が提供する1week企業魅力発見インターンを8月30日～9月4日(土日を除く)の間に行った。学生が石巻にある企業の社長や社員にヒアリングを行い、企業の魅力や課題を若者視点で発見しそれをフィードバックするプログラムとなっている。

私は「株式会社斎武商店」という鉄と紙のリサイクルをしている会社にヒアリングを行った。

研修期間中には、地元の高校の探求の時間でまちと人が展開する授業に記録として参加し、また秋田県五城目町に7月に起きた降雨被害の災害ボランティアとして行ったりした。

【1week企業魅力発見インターンを通して】

私は今回のインターンを通して、大きく3つの学びを得ることができた。

1つ目は、地方企業が持つ魅力である。私は東京にずっといるため会社と聞くと大企業というイメージしかなかった。加えて今回ヒアリングを行った斎武商店のような現場仕事を中心とした職種にはあまりポジティブなイメージを持っていなかった。しかし実際に第三者として企業と密に接してみても、最初と印象がガラリと変わった。斎武商店は中小企業のため従業員数が少なくすべての部署が同じ空間で仕事をしている。また、同じような職種の企業が近くに並んでいるため、他企業との連携も充実している。さらには社長が理解のある人で定時出勤退勤は当たり前で、有給もとりにやすい。もちろんすべての地方の企業がそうであるわけではないだろうが、石巻にはこういった「働きやすい環境」である企業が多いように感じた。石巻を含め地方は小規模の会社が多い。従業員数が多くないことは一見マイナスのように感じられるが、実は「働きやすい環境」をつくりだす1つのポイントとなっているの

ではないかと気づくことができた。

2つ目はコミュニティや視野を広げることの大切さである。私は今回の国内研修に、自分の興味関心や将来の選択肢の幅を広げたいと思ったのがきっかけで参加した。実際にインターンに参加して毎日たくさんの人に出会い、たくさんの人のお話を聞いて、たくさんの経験や考え方を吸収することができた。ヒアリングでは現場や事務など様々な部署の幅広い年代の方からお話を聞くことができた。中には会社の話にとどまらず、個人的な話までしてくれ、私のことにも興味を持って質問をしてくださる方もいた。ヒアリングを始める前は、まだ大学生で県外から今さっききた私に皆さんが話をしてくれるのかと不安が強くあった。しかしその不安は1回目のヒアリングが終わったときには完全になくなっていた。話を聞く側が自分を明らかにして聞く姿勢を相手に示せば、自然と相手も赤裸々に話してくれることに私は気づいた。短い期間で企業の課題や魅力を発見するにはかなり踏み込んだヒアリングが必要となる。それもあってか私は一回一回のヒアリングを丁寧に行うことを心掛けていたため、その分自分が吸収できるものが濃くなったのではないかと考える。

私は普段家と大学にあるコミュニティしかないため、全く知らない土地で出会った企業に勤める大人の方や他の大学生インターンとの交流で得た仕事に対する価値観や、物事に対する考え方は自分の視野を広くさせてくれたし、何かにぶつかった時に選ぶ選択肢を増やしてくれたように感じる。

3つ目は就職や「働くこと」に対する具体的なイメージである。私はこのインターンに参加するまで自分の将来を思い浮かべられずにいることをマイナスなこととして捉えていた。ただ、実際に社会で働いている人のお話を聞いていると、セカンドキャリアとして今の職場に勤めている方がいたり、元々関心のない業種だったけれど働いてみたらやりがいを感じるようになった方がいたりとさまざまだった。働き方や仕事の選び方は人の数だけあり、今の私はたくさん迷いながら自分の将来の選択肢を増やしていくことが大切なのだと思うことができた。

9月26日には、「まちと人と」の代表と斎武商店の社長と zoom を用いて報告会を行った。実際に自分がヒアリングをして発見した魅力や課題をまとめて共有をすることができた。報告会の中では課題解決のために具体的な解決案などをだし、社長からは実際に取り入れてみようという声をきくことができた。改めて、何か活動をしたときにフィードバックをしっかりと行い、振り返りや共有の場を設けることの大切さを感じることができた。

【まとめ】

私にとって今回のインターンは「吸収する」インターンであった。地方地域に行くのも、インターンに参加するのも初めての自分にとって終始不安のある毎日だった。専門的な知識があるわけでもないし、経験もない。そんな中でも短期間で自分が吸収できるだけのことは企業の方のお話や他の大学生インターンの方、地元の方から吸収してきた。企業の方は、

地元地域との関わりや「働くこと」について、大学生インターンからは今の自分にできることや、学生だからできる地域との関わり方について、地元の方から石巻の魅力や地方地域の抱える課題についてなど、1週間あまりの間にたくさんの方と出会ってたくさんのお話を聞いていただいた。

特に私の印象に残っているお話がある。それは秋田県で起きた降雨被害の災害ボランティアに一緒に行かせていただいた南三陸の観光協会の方がお話してくれたことである。私が今回のインターンに自分の進路に不安があることがきっかけで参加したことをはなした時に、「福祉職に就きたいと思った時に、決して福祉職に就かないと福祉やまちづくりに関われないわけではなく、どこかでそれらと繋がっている職業はたくさんあるよ」とおっしゃってくださった。私はその言葉を聞いてとても前向きな気持ちになれた。私は福祉や社会にはびこる問題には社会福祉士や福祉職の職員になることでしか関わっていけないものであると勝手に感じていた。しかし間接的であってもそれらと関わっている場面はたくさんあることに気づいた。そしてそれは都心の近くにいればいるほど感じにくいことであることにも気づいた。石巻での生活は、暮らしそのものがまちづくりであり福祉であるように今思うと感じられる。まちの中には、障害者施設や高齢者施設、地元の人が利用するコミュニティスペースやアート施設が点在している。もちろんそれらは都心にもあるが、私達のすぐ目に入るところにあるかといったらそうでないし、なんだかそのまちに溶け込んでいなく不自然に設けられている場合が多い。しかし石巻ではそれらがまちに自然に溶け込み、地元の人たちの暮らしと一体化している。その光景は私にとってとても不思議であったのと同時に、石巻で散歩していると自然と様々なコミュニティの人に出会えるような感覚で自分も今後福祉やまちづくりを日常の何気ない場面から考えていけたらいいなと感じた。

まとめが長くなったが、最後に私は今回このインターンに参加して自分のコミュニティを広げることができて本当によかったと感じている。東京に帰ってからも石巻と一緒にシェアハウス生活をした他の大学生インターンの子とは連絡をしている。彼らとの出会いは自分にとってとても良い刺激となった。普段はお話を聞けない企業の方から「働くこと」について具体的なお話を聞いたのもよい経験となった。今後もまた様々な地方インターンなどに参加して興味関心の幅をより広げ、自分の糧にしていけたらと考える。

*企画書の方には教育関係のことを行うと書いたのですが、石巻の高校でコロナが流行り休校措置が取られたり、悪天候により高校が下校するよう生徒に呼びかけたため授業ができなくなってしまったため、提出した企画書とは違う内容でおこなったことで報告書を書かせていただきました。度々お騒がせしてしまって大変申し訳ありません。確認のほうよろしく願いいたします。